

スクールカウンセラーだより

No.9



令和4年1月 スクールカウンセラー 中野隆治



「道」



明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

少し道についてお話したいと思います。もちろん、人生を道にたとえた場合の話です。

人がどこかへ行こうとすれば必ず道があつて、その道は一本とは限りません。分かれ道になったり、^{さんさんろ}三叉路になったりします。未知の場所に行くには、その道を自分の意志によって選択しなければなりません。自己責任で道を進まねばならないわけです。しかも、選んだ道が必ずしも最善の道であったかどうかは、着いてからでないと分からないのです。

とりあえず、行く手にある、今見られる限りの様子を確認し、これまでたどってきた状況からの推測を検討した結果、何れかの道を選ぶこととなります。ただし、それにも限度があります。時間という条件です。いつまでも、その場所に立ち止まっているわけには行かない場合は^{なおさら}尚更です。そんな時に考えられるのは、選択の成功の確率というものでしょう。そして、自分のこれまでの経験、知られ得る限りの情報……こういったものの総合から、一つの選択が決まると思われます。

ここで、参考にしたい詩があります。J・F・ケネディ大統領の就任式に呼ばれ、自作の詩の朗読をしたことでも知られる、アメリカ国民の間で最も人気のある詩人の詩です。

黄色く染まった森の中で道が二つに分かれていた

残念だが両方の道を進むわけにはいかない

.....

いま深いためいきとともにこれを告げる

ずっとずっと昔 森の中で道が二つに分かれていた

そして私は.....

そして私は人があまり通っていない道をえらんだ

そのためにどんな大きな違いができたことか

(ロバート・フロスト「歩むもののない道」)

詩人という、人があまり通らない道を選んだことの、満足と^{かいこん}悔恨、その困難さが感じ取れる詩です。

希望を切り開くのは自分の意志と努力で、自分の前の未知の分野に道を作って行くのは、自分自身ではないかと思ひます。

ぜひ、自分自身の正しい選択をめざして、今年もがんばって下さい。